

Ⅱ 目的

本学設置の目的

本学の前身である尾道短期大学は、卒業生1万9千人余を数え、屈指の歴史と規模を誇る公立短期大学として全国的に知られた存在であった。当初の国文科に加えて経済科、さらには、経営情報学科の新設と、順次規模を拡大してきたが、大学進学率が年々上昇する中、伝統ある短期大学の学科、教育内容を生かしながら、さらに発展させることを迫られ、また地域からは、かねて美術学科開設の強い要望があった。

こうした背景の中、21世紀の時代的要請に対応できる基礎的・専門的知識、高い見識と実践的能力を兼ね備えた人材の育成を目指し、平成13年4月、現在の形である2学部3学科の4年制大学への転換が行われ、さらに平成17年4月には、3研究科を有する大学院が開設された。

こうした経緯から伺えるように、地域の経済・文化との強い結びつきを、さらに拡大深化させ、尾道及び中四国地域を初めとして、広く社会に貢献することが本学に課せられた使命である。

教育に関する理念・目的と教育目標

本学は、経済情報学部と芸術文化学部という、性格の異なる二つの学部から構成されている。前者は、経済・経営・情報の3分野における、実践的教育・研究を理念としている。また、後者は、短大の国文科を母体とする日本文学科に、新たに美術学科が加わり、新しい芸術文化創造を目指している。

1. 経済情報学部

21世紀の日本及び世界は、経済・経営が高度に発達し、かつ情報技術によって運営されることが特徴である。本学部は、こうした社会にふさわしい有為な人材の育成を目的とする。

また、経済のグローバル化、複雑化の中で、特定の分野や専門的知識に偏らない、幅広い分野の知識、教養、技術を兼ね備え、問題発見・解決のできる能力を発揮する人材の育成が急務とされる。本学部はこうした、高度化、情報化、複雑化、グローバル化する経済・社会に貢献できる人材の育成を目的とする。このため、本学部の教育課程は以下の5つの教育目標から構成されている。

(1) 3分野の基礎的知識・技能をあわせ学ぶ

将来の進路如何にかかわらず、経済・経営の基礎と、情報技術（IT）のリテラシーをあわせて学ぶことにより、3分野の知識をバランスよく吸収、理解し、それを実践的に応用できる能力を育てる。

(2) 経済・経営分野において情報技術を活用する

経済・経営の分野において、従来の伝統的科目に加え、情報技術活用を柱とする科目（経済情報実習、経営情報論、経営シュミレーション等）が用意されており、学生は、経済・経営を先進的方法・技術とともに学ぶことを目指す。

(3) 情報技術と経済・経営的素養の融合を図る

情報系分野へ進む学生については、情報系に造詣の深い教員も多く指導にあたり、専門性を生かした教育が行われている。こうした学生は、経済・経営の必修科目（経済学入門《ミクロ・マクロ》、簿記・会計等）を履修した上に、理系・文系あわせた思考力・課題解決能力を身に付けることが期待される。

(4) 体験的・参加型授業・ゼミを通じ、実践的知識・能力を開発する

本学部では、単なる知識の静的な習得に止まらず、卒業後社会で素養・能力を生かし、活躍できる実践的知識と応用能力の学習・練磨に重点を置いている。このため授業、ゼミナールにおいて、さまざまな試みが行わ

れており、学生の実践的能力を開発することを目的とした、体験的・参加型の授業・ゼミが多いことも本学の特質となっている。(本文基準9の記述参照)

(5) カリキュラム、履修モデルの充実と進路選択の支援

開学以来、全学及び学部内FD活動により、持続的にカリキュラムの拡充が図られて来た。この結果、学生の進路選択を支援するための履修モデルも、徐々に充実してきた。平成19年度には、本学が力を入れている金融部門において、従来からあった3科目「金融論Ⅰ」、「金融論Ⅱ」、「金融実務」に加え、ファイナンシャル・プランニング、ファイナンス論、および証券市場論が開講され、この分野の専門的知識を持った学生の育成、金融部門への進路・就職支援が図られることとなり、4番目の履修モデルが設定された。

2. 芸術文化学部

本学部は、尾道市が目指す「国際芸術文化都市」の重要な一環として位置づけられ、日本文学と美術は二つの柱である。尾道の持つ文化的土壌を活かしつつ、各学科においては、それぞれの分野における専門家の育成、すなわち、専門的知識、能力の習得、さらに創作活動を行う人材の養成が図られ、ひいては地域および全国的な芸術文化振興への貢献が期待されている。各学科の教育目標は以下の通りである。

(1) 日本文学科

日本文学と日本語の歴史と現在を学び、専門的知識や能力を習得

- ① それをさらに発展させる人材の育成
- ② 文化活動・社会活動において、指導的役割を果たす人材の育成
- ③ 地域の芸術文化に深い理解を持ち、新しい文化を創造していく人材の育成
- ④ 国際化社会、情報化社会の要請に応えられる教養と実務能力を備えた人材の育成

(2) 美術学科

- ① 歴史や芸術文化を学び、国際的な視野から造形活動を推進できる絵画分野の人材育成
- ② 美術や生活芸術に対する広い視野に立ち、より良い生活環境、生活空間を形成するため、社会に貢献できるデザイン分野の人材育成
- ③ 新しいメディア(表現方法、ネットワーク等)を活用し、美術の活動範囲を広げ、海外のネットワークを活用できる人材の育成
- ④ 地域の価値あるものを発見・保護・育成する等、美術の視点から、地域の活性化に貢献できる人材の育成

3. 大学院

平成17年4月、尾道大学大学院3研究科が発足した。

従来から、尾道市は、尾道大学設置基本計画(平成6年作成)等において、学部完成後の速やかな大学院設置を重要課題として位置づけてきた。学部教育で培われた専門的素養のある人材を、より高いレベルにおいて学習と研究に取り組みせ、創造性や判断力、知識と能力に富んだ専門的職業人や優れた研究者、創作者を育成する事は、高度化しつつある時代と地域のニーズに合致すると考えられる。

各研究科の教育目標は以下の通りである。

(1) 経済情報研究科

- ① 従来の研究者育成に専ら力点を置いた内容のみではなく、働く社会人、生涯学習を生きがいとする中高年齢者や主婦等のより広い層をも対象に考え、大学院レベルの高等教育へのニーズを開拓する。

- ② 実務的・専門的知識、資格取得と関わる内容や生活・地域と結びついた内容とすることにより、地域社会との結びつきを深め、地域に貢献する。
- ③ 情報技術を活用した実践的教育を行い、仕事や研究に情報技術を具体的に活かせるようにする。
- ④ また、本学大学院入学志願者に、社会人や留学生の希望が多いことを反映して、講義、研究指導ともに多様性、弾力性が求められる状況にある。各教員の創意工夫、個性的な対応を進めていくことにより、少子高齢社会、グローバル化、情報化の時代における大学院のあり方、社会との関係を再構築していく。

(2) 日本文学研究科

① 豊かな知性や優れた徳性を持つ人材の養成

日本の言語や文学、そして芸術文化の深い理解や幅広い視野、さらには、それらの中軸とした国際的な感覚や異文化を共有する教養を身につけ、その豊かな知性や優れた徳性によって、社会活動や文化活動に指導的役割を果たす人材を養成する。

② 個性と自律をもつ人材の養成

日本文学に関する研究にとどまらず、研究内容の総合性にも重点を置き、学生個々の特性が生きるような、自律的で個性的な人材を養成する。

③ 養成する具体的人材

上記基本方針を前提に、「文化活動・教育実践の指導者」、「学際性豊かな、視野の広い知識人」、「地域の文化活動に寄与する人材」、「文学表現・執筆活動を通して、社会に貢献する人材」、「社会人教育・生涯教育に貢献できる人材」、「研究者もしくは高度職業人」等の育成を目標とする。

(3) 美術研究科

① 絵画研究分野

各人の更に高度な技術、鋭い感性、自由な創造力の開発を指導し、豊かな人間性に基づく独自の自己表現を通じて、地域的・全国的・国際的な文化の創造と活性化に資する専門的職業人の養成を図る。

② デザイン研究分野

今日の多様な社会環境に即応しうる柔軟な創造力を重視し、また、「独自の視点・感性・自在な表現方法」、「時代状況を先見的に解釈しうる洞察力」、「地域文化に潜在する国際的価値の発掘と発信」等に留意しながら、大学院生個々の適性を開発する。教授との共同研究も含め、時代状況の優れた表現者の養成を図る。

③ 世界に開かれ、創造的かつ心豊かな「ヒューマンポート・尾道」計画における、創造的な芸術文化的風土環境を形成する「まちごと芸術文化構想」や、生涯学習、快適な自然環境の形成充実事業等への貢献により、独自の地方都市のアイデンティティを内外に発信する。